

乳児棟で避難訓練を実施！今回は「不審者対策訓練」を！～驚いて泣き出す子も～



8月24日(月)に、乳児棟で避難訓練を実施しました。毎月実施しているのですが、今回は「不審者が園内に侵入した場合」に、どのように対処するかを想定して行いました。

午前10時になり、突然、「ピー！ピー！」という大きな笛の音。その後に「ウサギさんが来ました。」という美子先生の声。子ども達を保育している先生方は、すぐに「部屋のカギ」をかけ、不審者が中に入れないようにしました（「ウサギさんが来ました」というのは、不審者が現れたときにすぐに対応するという暗号です）。

そして、不安顔の子ども達を「大丈夫だよ。」などと言いながら笑顔で安心させ、部屋の奥に連れて行きます。カギがかけられているため不審者役の金子先生（サングラスをかけ帽子を被りマスクまでしています）は、部屋の扉をドンドンと叩きます。これには「バナナ」組・「メロン」組の子ども達もビックリ。中には怖くて泣き出す子も。それでも、先生方の指示をしっかりと守り部屋の奥に素早く移動しました。子ども達を座らせると、先生方はその前に立ちほだかりました。

バナナ組と事務室にいる先生2人は、すぐに「刺股：さすまた」を持って不審者のところへ。そこで、「先端のU時金具を用いて相手の胸、太もも、タスキのように胸を挟み込む形で押し付けることや、一人ではなく2人以上で対処すること」など、刺股の有効な使い方の確認をしました。



不審者が侵入した事件として一番有名なのが、2001年に起きた池田小学校事件です。8名の子どもが殺害され、その他何名も負傷しました。また、この他にも、その2年後に京都の小学校で子どもが襲われたり、大阪の小学校で先生が殺害されたりするという事件がありました。

東日本大震災の時、ある会社で研修を受けていた外国の方が日本人の行動に驚いていたそうです。地震が起きてすぐに、日本人は「机の下に身を隠し、それぞれの分担に従って避難する」ことを当たり前のようにやっていたことに。日本人は小さい頃から



このような訓練を受けているからできるのだと思います。

毎月行っている「避難訓練」。訓練とはこのように大切な意味があったのですね。

〔写真〕(1段目)不審者役の金子先生がメロン組のお部屋に。直後に、「ウサギさんが来ました」という美子先生の大声が！すぐに先生方が部屋のカギを閉めました。(2・3段目)先生の指示に従い、すぐにお部屋の奥に移動するバナナ組の子ども達。きちんとお座りすることができました。2歳近くになると、先生の言葉にきちんと反応し、自分から行動することができるようになります。先生方も、その素早い行動をしっかりと認め褒めています。きちんとやったことを「見とり」、

それを子ども達に返してあげる。教育の原点がここにありました。褒めると自信につながります。しかし、中には怖くて泣き出し、先生に抱きつく子も。(一番下)先生方がいざという時のため「刺股の使い方」の確認を！「2人一組で、上半身と下半身別々に押しつけるように」「子ども達を守ることが先決！無理に捕らえようとはしない」などを確認しました。

